

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	看護学科	平成6年文部科学大臣告示84号			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	2955時間／108単位	1740時間 /76単位	180時間 /9単位	1035時間 /23単位	0時間 /0単位	0時間 /0単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
240人		243人	0人	18人	85人	103人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

毎年自己点検・自己評価委員会において、教育成果ならびに教育評価を行い、自己点検した内容を元に学校関係者評価委員会において専門学校における教育の方向性と改善点について協議を行う。また教育課程編成委員会においては、学校関係者評価委員会での教育指針ならびに改善提案を踏まえ各分野ごとの専任教員と委員会を実施し、業界目線でのカリキュラム構成や実施科目の見直しを諮り毎年カリキュラム変更を実施し教育計画を立案する。

また、作成されたカリキュラムは「ディプロマポリシー」「カリキュラムポリシー」「アドミッションポリシー」に則り学年目標、取得目標資格、就職分野を明確にして科目ごとのシラバスから毎時間のコマシラバスまでを表示し学生へ告知する。

成績評価の基準・方法

（概要）

成績評価における評価点は、平素の学習状況、出席状況の3要素による加点ならびに試験結果を元に100点法とし、60点以上を合格点とし、成績評価による学業結果を総合的に判断し、GPAを用いて算出する。GPAの算出は、小数点以下第3位以下を四捨五入する。

GPAの算出方法

GPAを算出する計算式は以下のとおりです。（GPAの算出は、小数点以下第3位以下を四捨五入するものとします。）

【GPAを算出する計算式】

$$GPA = \frac{\text{（当該授業科目の単位数} \times \text{各授業科目で得たGP）の合計} \cdots \cdots \text{①}}{\text{当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計} \cdots \cdots \text{②}}$$

点数範囲	100点～90点	89点～80点	79点～70点	69点～60点	59点以下 または不合格
成績評価	A	B	C	D	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0

卒業・進級の認定基準

（概要）

卒業の認定は、卒業までに必要なすべての授業科目の単位について単位認定試験（追試験・再試験含む）による単位を修得した者を対象として、学校長、教務及び学科教員により教務単位認定会議において学校長が認定を行う。卒業が認定されない学生は卒業延期もしくは留年となる。卒業判定の結果は、本人及び保護者へ直接告知し、面談によりその後の本人の希望を優先した進路相談とカウンセリングを実施し、将来のキャリアの方向性を決定する。留年及び卒業の延期者については、その後の取得が必要な単位を明確にし、卒業に必要な不足の単位を取得するための補講並びに補習、試験を実施し、合格点に達した者について再度単位認定会議を実施して卒業の認定を行う。

学修支援等
(概要) 学生個々に応じて必要時に学習面、対人面、健康面についての指導を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
70人 (100%)	2人 (2.9%)	66人 (94.2%)	2人 (2.9%)
(主な就職、業界等) 病院、クリニック等			
(就職指導内容) 就職についての相談等は各学年担当教員・学科長が随時対応している。また、2年生は2月、3年生は4月にキャリアセンターより履歴書内容指導、就職試験のための必要書類について説明している。希望学生には面接練習をしている。各病院からの募集案内は随時周知している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 看護師			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
235人	12人	5.1%
(中途退学の主な理由) 進路変更、学業不振		
(中退防止・中退者支援のための取組) キャリアサポートアンケート、面談、保護者との連携、転科・転校などにより学園全体で中途退学0%への取り組みを行っている。成績不振者には、少人数制の補講を実施。		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	視能訓練士学科	平成6年文 部科学大臣			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
	昼間		講義	演習	実習	実験	実技
3年		2525時間/109単位	1020時間 /68単位	510時間 /17単位	995時間 /24単位	0時間/単 位	0時間/単 位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
132人		99人	0人	6人	57人	63人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）					
<p>（概要）毎年自己点検・自己評価委員会において、教育成果ならびに教育評価を行い、自己点検した内容を元に学校関係者評価委員会において専門学校における教育の方向性と改善点について協議を行う。また教育課程編成委員会においては、学校関係者評価委員会での教育指針ならびに改善提案を踏まえ各分野の専任教員と委員会を実施し、業界目線でのカリキュラム構成や実施科目の見直しを諮り毎年カリキュラム変更を実施し教育計画を立案する。</p> <p>また、作成されたカリキュラムは「ディプロマポリシー」「カリキュラムポリシー」「アドミッションポリシー」に則り学年目標、取得目標資格、就職分野を明確にして科目ごとのシラバスから毎時間のコマシラバスまでを表示し学生へ告知する。</p>					
成績評価の基準・方法					
<p>（概要）成績評価における評価点は、平素の学習状況、出席状況の3要素による加点ならびに試験結果を元に100点法とし、60点以上を合格点とし、成績評価による学業結果を総合的に判断する。</p> <p>GPAの算出方法 GPAを算出する計算式は以下のとおりです。（GPAの算出は、小数点以下第3位以下を四捨五入するものとします。）</p> <p>【GPAを算出する計算式】</p> $GPA = \frac{\text{（該当授業科目の単位数} \times \text{各授業科目で得たGP）の合計} \cdots \cdots \text{①}}{\text{当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計} \cdots \cdots \text{②}}$					
点数範囲	100点～90点	89点～80点	79点～70点	69点～60点	59点以下 または不 合格
成績評価	A	B	C	D	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0
卒業・進級の認定基準					
<p>（概要）卒業の認定は、卒業までに必要なすべての授業科目の単位について単位認定試験（追試験・再試験含む）による単位を修得した者を対象として、学校長、教務及び学科教員により教務単位認定会議において学校長が認定を行う。</p> <p>卒業が認定されない学生は卒業延期もしくは留年となる。</p> <p>卒業判定の結果は、本人及び保護者へ直接告知し、面談によりその後の本人の希望を優先した進路相談とカウンセリングを実施し、将来のキャリアの方向性を決定する。留年及び卒業の延期者については、その後の取得が必要な単位を明確にし、卒業に必要な不足の単</p>					

位を取得するための補講並びに補習、試験を実施し、合格点に達した者について再度単位認定会議を実施にて卒業の認定を行う。
学修支援等
(概要) 学生個々に応じて必要時に学習面、対人面、健康面についての指導を行っている。特に低学力者対策として補講等も行っている。 また保護者に対し説明会や個別面談も実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
28人 (96.6%)	0人 (0%)	28人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 大学病院・総合病院・眼科病院等			
(就職指導内容) 3年次4月ガイダンス時に、就職についての相談は担任・副担任・学科長が随時対応。キャリアセンターの協力のもと、面接練習、履歴書内容指導、各病院からの募集案内を掲示、就職試験のための必要書類について説明している。			
(主な学修成果 (資格・検定等)) 視能訓練士 同行支援従業者			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
105人	11人	10.4%
(中途退学の主な理由) 進路変更、学業不振、人間関係		
(中退防止・中退者支援のための取組) キャリアサポートアンケート、面談、保護者との連携、転科・転校などにより学園全体で中途退学者0%への取り組みを行っている。 成績不振者には、少人数制の補講を実施。		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		専門課程	歯科衛生士学科	平成6年文部科学大臣告示84号			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	2720時間/103単位	710時間 /46単位	1110時間 /37単位	900時間 /20単位	0時間 /0単位	0時間 /0単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
128人		138人	0人	5人	47人	52人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）					
<p>（概要）</p> <p>毎年自己点検・自己評価委員会において、教育成果ならびに教育評価を行い、自己点検した内容を元に学校関係者評価委員において専門学校における教育の方向性と改善点について協議を行う。また教育課程編成委員会においては、学校関係者評価委員会での教育指針ならびに改善提案を踏まえ各分野ごとの専任教員と委員会を実施し、業界目線でのカリキュラム構成や実施科目の見直しを諮り毎年カリキュラム変更を実施し教育計画を立案する。</p> <p>また、作成されたカリキュラムは「ディプロマポリシー」「カリキュラムポリシー」「アドミッションポリシー」に則り学年目標、取得目標資格、就職分野を明確にして科目ごとのシラバスから毎時間のコマシラバスまでを表示し学生へ告知する。</p>					
成績評価の基準・方法					
<p>（概要）</p> <p>成績評価における評価点は、平素の学習状況、出席状況の3要素による加点ならびに試験結果を元に100点法とし、60点以上を合格点とし、成績評価による学業結果を総合的に判断し、GPAを用いて算出する。GPAの算出は、小数点以下第3位以下を四捨五入する。</p> <p>GPAの算出方法</p> <p>GPAを算出する計算式は以下のとおりです。（GPAの算出は、小数点以下第3位以下を四捨五入するものとします。）</p> <p>【GPAを算出する計算式】</p> $GPA = \frac{\text{（該当授業科目の単位数} \times \text{各授業科目で得たGP）の合計} \cdots \cdots \text{①}}{\text{当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計} \cdots \cdots \text{②}}$					
点数範囲	100点～90点	89点～80点	79点～70点	69点～60点	59点以下 または不合格
成績評価	A	B	C	D	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0
卒業・進級の認定基準					
<p>（概要）</p> <p>卒業の認定は、卒業までに必要なすべての授業科目の単位について単位認定試験（追試験・再試験含む）による単位を修得した者を対象として、学校長、教務及び学科教員により教務単位認定会議において学校長が認定を行う。卒業が認定されない学生は卒業延期もしくは留年となる。卒業判定の結果は、本人及び保護者へ直接告知し、面談によりその後の本人の希望を優先した進路相談とカウンセリングを実施し、将来のキャリアの方向性を決定する。留年及び卒業の延期者については、その後の取得が必要な単位を明確にし、卒業に必要な不足の単位を取得するための補講並びに補習、試験を実施し、合格点に達した者について再度単位認定会議を実施にて卒業の認定を行う。</p>					

学修支援等 (概要) 学生個々に応じて必要時に学習面、対人面、健康面についての指導を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
39人 (100%)	0人 (%)	35人 (89,7%)	4人 (10.3%)
(主な就職、業界等) 歯科診療所			
(就職指導内容) 1・2年時から就職ガイダンスに参加、3年時4月よりキャリアセンター協力のもと求人票の味方・履歴書内容説明・面接練習を行っている。 就職に関する相談は担任・専任教員で随時対応。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 歯科衛生士			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
131人	4人	3.1%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) サポートアンケート、面談、保護者との連携、転科・転校などにより学園全体で中途退学0%への取り組みを行っている。		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士			
医療		医療専門課程	臨床工学技士学科	平成6年文 部科学大臣 告示84号				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数		開設している授業の種類				
	昼間	2730時間／109単 位		講義	演習	実習	実験	実技
3年				510単位 時間/32 単位	1665単位 時間/59 単位	555単位 時間/18 単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
				単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120人		90人	0人	5人	67人	72人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）					
<p>（概要）毎年自己点検・自己評価委員会において、教育成果ならびに教育評価を行い、自己点検した内容を元に学校関係者評価委員会において専門学校における教育の方向性と改善点について協議を行う。また教育課程編成委員会においては、学校関係者評価委員会での教育指針ならびに改善提案を踏まえ各分野ごとの専任教員と委員会を実施し、業界目線でのカリキュラム構成や実施科目の見直しを諮り毎年カリキュラム変更を実施し教育計画を立案する。</p> <p>また、作成されたカリキュラムは「ディプロマポリシー」「カリキュラムポリシー」「アドミッションポリシー」に則り学年目標、取得目標資格、就職分野を明確にして科目ごとのシラバスから毎時間のコマシラバスまでを表示し学生へ告知する。</p>					
成績評価の基準・方法					
（概要）定期試験・平常点評価 6成績評価における評価点は、平素の学習状況、					
実点数 範囲	100点～90 点	89点～80点	79点～70点	69点～60点	59点以下 または不 合格
成績評 価	A	B	C	D	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0
<p>出席状況の3要素による加点ならびに試験結果を元に100点法とし、60点以上を合格点とし、成績評価による学業結果を総合的に判断し、GPAを用いて算出する。GPAの算出は、小数点以下第3位以下を四捨五入する。</p> <p>【GPAを算出する計算式】 「GPA＝（該当授業科目の単位数×各授業科目で得たGP）の合計÷当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計」</p>					
卒業・進級の認定基準					
<p>（概要）卒業の認定は、卒業までに必要なすべての授業科目の単位について単位認定試験（追試験・再試験含む）による単位を修得した者を対象として、学校長、教務及び学科教員により教務単位認定会議において学校長が認定を行う。</p> <p>卒業が認定されない学生は卒業延期もしくは留年となる。</p> <p>卒業判定の結果は、本人及び保護者へ直接告知し、面談によりその後の本人の希望を優先した進路相談とカウンセリングを実施し、将来のキャリアの方向性を決定する。留年及び卒業の延期者については、その後の取得が必要な単位を明確にし、卒業に必要な不足の単位を取得するための補講並びに補習、試験を実施し、合格点に達した者について再度単位認定会議を実施にて卒業の認定を行う。</p>					

学修支援等
(概要) 学力不足者の対策については放課後に補習を行う。また、教育委員会と連携し基礎学力向上の補講を実施。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
36人 (100%)	0人 (0%)	12人 (33.3%)	24人 (66.6%)
(主な就職、業界等) 病院・クリニック			
(就職指導内容) 学科教員およびキャリアセンターより履歴書添削および面接練習を実施			
(主な学修成果 (資格・検定等)) 第2種ME技術実力検定試験、臨床工学技士			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
101人	10人	9.9%
(中途退学の主な理由) 目的希薄に伴う進路変更。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 目的意識喪失者に対しては、個別面談や職業理解を深める取り組みをし、スクールカウンセラーと協力して精神面のサポートを実施。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
視能訓練士学科	200.000 円	700.000 円	180.000 円	
看護学科	200.000 円	700.000 円	450.000 円	
臨床工学技士学科	200.000 円	700.000 円	380.000 円	
歯科衛生士学科	200.000 円	500.000 円	350.000 円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 HP 上で公開		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
https://www.snm.ac.jp/school/info/		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
<p>学校法人滋慶学園 札幌看護医療専門学校が設置する専修学校における教育・運営活動等の状況について、自ら行う点検及び評価の項目並びにその実施体制等について検証し、問題点を把握の上目標を明確化し、必要な支援・改善を行うことにより、教育水準の向上と質の保証を図ることが重要である。また多くの外部評価を受けることにより学校評価の精度を高め委員会を組織して、客観性を持った評価による改善を目指したい。特に卒業生、保護者、地域住民、企業等との相互理解と連携を確立し、学校の説明責任を果たしていくよう努めることにより学校の組織力を高め地域に支えられる学校づくりにも貢献したい。</p>		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
医療法人社団養生館苫小牧日翔病院	2025 年 4 月～2027 年 3 月	卒業生代表 (旧校名北海道ハイテクノロジー専門学校)
在学生の保護者	2025 年 4 月～2027 年 3 月	保護者代表
北海道札幌東商業高等学校	2025 年 4 月～2027 年 3 月	高等学校代表
株式会社札幌副都心開発公社	2025 年 4 月～2027 年 3 月	地域代表
医療法人脳神経研究センター新さっぽろ脳神経外科病院	2025 年 4 月～2027 年 3 月	医療分野代表
医療法人社団 一心会	2025 年 4 月～2027 年 3 月	医療分野代表
学校関係者評価結果の公表方法		

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 【HPに公開】 https://www.snm.ac.jp/school/info/
第三者による学校評価 (任意記載事項)

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.snm.ac.jp/
